



題字/小澤信三郎 会長

航 跡

第36号

早稲田ヨットクラブ

平成11年6月発行

発行者・事務局長/鈴木光宏

編集・広報室/米田晴二

■新大型艇「稲魂」就航

早稲田スポーツ100年という記念すべき1998年(ヨット部としては66年、体育会公認60年)にあたり、新しい大型艇を購入するという大学の方針が出されました。7月の体育実技に間に合わせたいという意向もあり、5月から大車輪の募金活動が開始されました。一方、「どんな艇種」を選ぶかも大変。OB各人の描く理想像がいろいろあって、話し合いは熱を帯びこんがらがりエンスト小前になったり大変でした。要するに「体育実技で一般の学生を安全に海上で教育するのに適したフネを選ぶ」という当然のことを何度も確認しながら選艇致しました。折から不景気で中古艇の出物は多いのですが、期待するサイズの大きさ、稲龍と同じまたはそれ以上……となると価格も高くなり適品もぐっと限られました。早稲田には、時代時代で大型艇に対する考え方がいろいろあることを痛切に知らされました。新しく講師に就任された藤井氏にその間の交通整理をお願いすることも度々でした。大学体育局にも、他部の先生にも「大学体育教育の期待する形・姿」を繰り返し確認することをしながら、結論を持って行きました。



そして7月の体育実技は本艇をフルに活用して無事に成功させました。学生が、この授業でクルーザーに毎日乗れたことは予想外だったようで来年の学生へのクチコミでの良い影響が期待されます。65才前後のオジチャンOBも人気があったようです。社会福祉の専門の藤井先生にも「生涯スポーツの典型」として評価いただいたのではないのでしょうか。

実技が終わってから、塗装などのお化粧をしました。名前は「稲魂」と決まりました。奥島総長の命名で艇尾の文字は、直筆です。スタンサイドは「SPIRIT OF WASEDA」としました。

9月20日、東京夢の島マリーナで、披露会を開催。体育局長にもヨットを再認識していただきました。同マリーナのOB艇、早稲丸、スーパー・サンバードにも出動していただきました。この2艇はこの水域で常に帆走しており、レースにも出場しています。

98年末、募金は目標額にほぼ到達致しました。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。また、新艇「稲魂」の活動にご参加ください。新部員募集にまず活躍してもらわねばなりません。実技教育の新しい形も検討しましょう。

大型艇募金結果報告

99・1・06

1998年5月から開始致しました、首題の募金はOB諸氏の熱意ある反響を呼び順調に推移いたしました。期待の成果を得ることができました。ご指導ご援助に衷心より御礼申し上げます。

1) 98年12月31日付けでの募金結果は：

目標：5,000,000円に対して、
募金：4,938,000円
未達：62,000円
達成率：98.7%

2) 大学への寄付：

寄付実施：4,740,000円
* 大学からの領収書が皆様に発行されました。
* 税制上の優遇措置が受けられます。

3) 口座残金：190,000円 十金利若干

* 未だ若干の寄付が期待されますので、これを加え大学に寄付致します。

4) 新艇は夏期体育実技に就航、成果を上げました。また体育局長への披露会も成功しました。現在新年度の運用計画検討中です。

5) 銀行口座：今後の運営のため継続開設しておきます。
第一勧業銀行早稲田支店(普通) 1827927
「早稲田ヨットクラブ大型艇基金」

早稲田ヨットクラブ・大型艇事務局 米田晴二

新クルーザー「稲魂号」募金 1998年12月

一(寄付者名簿)

新名敬一、山田直之助、永元作一、長医秀明、堀江喜三、金子四郎、菊川誠一、仲山寿太郎、坪田善男、野木良一、林忠治、久留島三記男、横田豊、清水正博、木村一雄、加藤久直、湯沢一清、伊井邦彦、漆原秀雄、渡辺禎夫、秋山昭、石垣英治、石井章夫、河村雄三郎、金沢健、米田秀久、石川武男、米田晴二、安藤一夫、岩本誠、千葉栄作、松本富士也、鈴木賢太郎、遊佐嘉弘、浜田裕、杉山博保、舟岡正、武村洋一、中田忠雄、加藤文生、原田勉、土肥丈志、木村光成、山崎富祥、吉田秀、石田晋也、安藤順一、大興太郎、小嶋朋好、山中東洋平、森昭、岡戸義一、大原晴弘、佐々木肇、石合幸彦、金刺高雄、大矢木一、斑目寿明、藤田亨、杉井健治、高松猛、藤井達也、青木博和、赤松幹男、近岡保博、大嶋徳次郎、角田貴士、齋田治、大原義昭、北川邦弘、戸枝隆也、小池充郎、佐々木陽一、梅原浩一郎、鈴木光宏、渡辺誠二、川原康嗣、牧宏樹、矢口一馬、白都努、皇山知己、古沢琢、山岸大介 80名以上

〈稲魂披露会〉

林敏弘体育局長、近江幸治ヨット部長、伊井邦彦、秋山昭、石井章夫、金沢健、米田晴二、千葉栄作、浜田裕、遊佐嘉弘、鈴木賢太郎、杉山博保、中田忠雄、木村光成、木内博太郎、小嶋朋好、守屋光雄、大興太郎、松島弘行、岡戸義一、石合幸彦、大矢木一、杉井健治、新沢はるみ、栗林秀和、藤井達也、大原義昭、齋田治、野口正文、光武勝広、貝出健、橋本一彦、香田錦也、鈴木光宏、大辻信哉、石田博、羽田勝彦、OB・35名

1998年 学生レース成績

	470	スナイブ	総合
春季関東インカレ	4位	6位	6位
	口、法、関、早	口、関、中、慶	口、関、法、
秋季関東インカレ	3位	4位	3位
	日、法、早、関	日、慶、関、早	日、関、早、

……1位と以下の差が大きい……日人は層が厚い。……

	470	スナイブ	総合
全日本インカレ	10位	11位	11位

……早稲田の不出来は論外だったが、

立命館、同志社、福岡、京都産業、日大、などが強かった。

	470	スナイブ	総合
六大学	2位	1位	2位
早慶戦	1位	1位	1位
同志社戦	2位	2位	2位

* 関東インカレは参加校：43、決勝：16校。全日本に7校（各クラス）

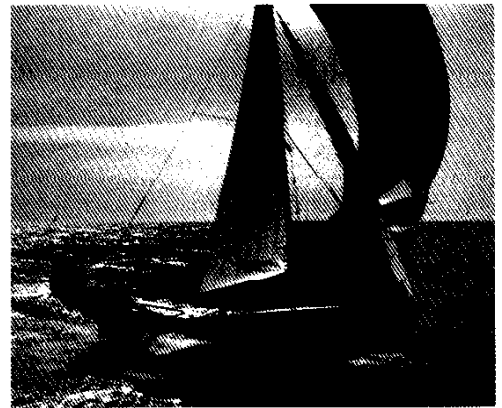
* 全日本は22校（各クラス）が出場。

* 各レースの出場艇は各クラス3隻。2クラスだから、6隻、12人。

* 小人数に悩む。部員増加に努力しているが。

* 少子化が進み、大学進学絶対数減少の傾向の顕著な昨今、大学経営のやり方で運動部の性格も揺れ動くことが予想される。この中で早稲田大学はスポーツ隆盛を目標に掲げて学生の人部を計っている。

* **99年度の早稲田は力のあるチームと見られる。OBの協力で大きな目標達成を目指したい。



W K
27 - 30



4大学OB戦、3連覇!

第27回、早稲田、慶応、同志社、関西学院。

琵琶湖。98・10・10、体育の日。

林忠治、石井章夫、安藤一夫、千葉栄作、浜田裕、中田忠雄、

吉田秀、大嶋徳次郎、諏訪康弘、杉野弘明、

平成3年諏訪・杉野組スナイブが完全優勝。

昭和30年A級デインギーも健闘。3連覇となった。

来年は慶応の当番、葉山で実施の予定。

関東14大学OB戦 シニア優勝。総合7位

第12回、諏訪湖。98・6・14、スナイブ・シニア、スナイブ・フリー、シーホッパー、3種目。

スナイブ・シニアは早稲田が優勝した。

総合は日大、東大、中央の順。早稲田7位。

参加者：若い順、山下浩平、鳥田総一郎、浜田裕、千葉栄作、松本富士也、安藤一夫、石井章夫、加藤久直、堀江喜二。

最近ではインカレ上位校OBが、若手投入で勝ちになる傾向。

～ゴルフの部 優勝 千葉栄作、出基人、小嶋朋好、石合幸彦、

A級デインギー全日本 参加29チーム。5位。

第8回、葉山、98・6・4、前夜祭、5日のレース絶対好コンディション 慶応の当番で万全のアテンド。多数参加で賑わった。

(選手団) 若い順; 武藤忠、福島洋二、藤田亨、北島武夫、加藤文生、中田忠雄、角岡正、千葉栄作、河村雄三郎、石井章夫、加藤久直、(応援団) 鈴木、渡辺、大原、山中、木内、石井哲、松島、大、滝、出、安井、杉山、浜田、岩本、是枝、米田、金沢、

……「げっこう・33」で観戦応援した。

早稲田の戦績は96、97の優勝の後なので、今回は遠慮し友好的5位。

来年は博多。

OBの活躍

470 早稲田OB諸君の活躍

平成も10年経過、早稲田からは優れたヨットマンが輩出している。

全日本470級選手権・第27回、福岡小戸。シドニーオリンピックに向けての動きが活発の中、激戦展開! 早稲田OB諸君の活躍以下の通り。

田中年彦・児玉芭晴(豊田自動織機)総合3位、吉峰秀樹組(高松市役所)11位、鈴木順之・鈴木順之介兄弟(豊田自動織機)12位、

470上位は学連OB・実業団の顔馴染みがひしめいている。田中・児玉組はナショナルチーム選考会3位である。

近く学生たちは豊田自動織機チームの胸を借りる。

J24「GEKKO/Jr.」

香田錦也・戸枝隆也(S56) 松下益暢(S62) 島山知己(H6)らのJ24は、教習での全日本で8位、繰上り出場権を得て、本年10月のジェノアでの世界選手権を目指して頑張っている。シーボニアが基地。平成の若者の参加を得て大きくはばたいてほしい。

大型レース志向は「スーパー・サンバード41」に来たれ!

石合幸彦(S42) 大矢木(S45) 杉井健治(S48)が中心でこの大物を入手、改装整備し東京新木場・夢の島マリナで活動を開始した。TYC(東京ヨットクラブ)ポイントレース全日程に出場をして総合優勝を目指す意気込み。また8月オーシャンレガッタ(大島)に参加する。毎週休日に練習する。交通の便もよい。大勢参加して下さい。定員12名の艇。

ヨットやり直したい人、歓迎。

子供にヨットを教える方法

東京都のヨット訓練所が江東区若州にある。指導員に早稲田のOBが増えてきた。堀江、遊佐、千津井、それに平成OBも交替で。早稲田OBは指導者としての質が高いと評価されている。OPデインギー。さらに、本格的にオリンピックを目指すジュニアは、江の島ジュニアヨットクラブへ。松本富士也OBは江の島の副会長。

実技教育の現場から

講師 藤井達也
[昭和50年卒業]



97年末、大原理事長他OBの皆さんから実技講師に就任せよとの強い要請があり、短期間条件で引き受けました。個人的な事情はそういう余力はなく当初固辞したのですが、話し合いの過程で、大学の「体育実技の選択科目化の影響」などで、「ヨット実技」を改革する必要があることを知りました。私が高大学の教員として「大学」と「学生」の現状と動向を知っていること、また早稲田大学の教員に数人の知人もいますので、少しはお役に立てるかと思ったからでした。

当初、私は夏の実技合宿の責任者として、実技改革に努力すれば良いと、考えていたのですが、就任直後、私には突然の「大型艇購入問題」が出てきました。過去の理事会の経過から米田先輩が中心になって話を進められていた大学当局との折衝の結果、購入のための大学予算が決定したのです。購入艇種決定まで何度もOBの皆さんに話し合いをしていただき、更にOBの皆さんのご協力により「実技に間に合うように購入」出来ました。

98年度実技は大原理事長や他のOBの方々のご協力、学生ヨット部員の努力により無事成功しました。大型艇「稲魂」を全日程活用できましたので参加学生をすべて海に出せました。ヨットと海に親しむ「楽しく、安全な」実技を実施できて、本当に良かったと思っています。休暇をとって実技教育にご協力いただいたOBの皆さんに心より感謝しております。やって見て「実技の大きさ」が良く分かりました。前任の皆さんに敬意を表します。

今年99年度の実技は、7月24日から8月3日まで従来通り岩井海岸で行います。下隠居(ペンション南房シーパレス)です。現在の学生部員は人数が少なくなっていますのでOBの方々の協力なしでは実技は出来ません。皆さんのご協力を宜しくお願い致します。

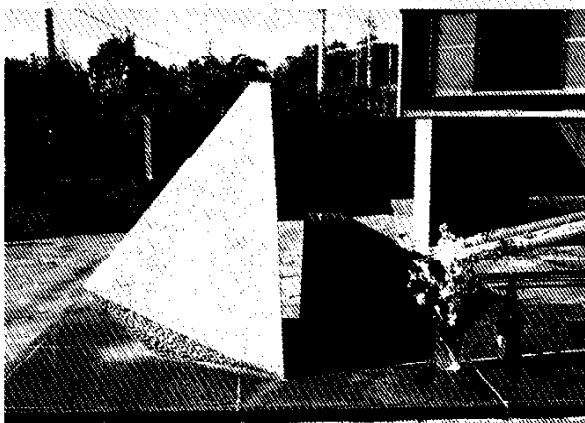
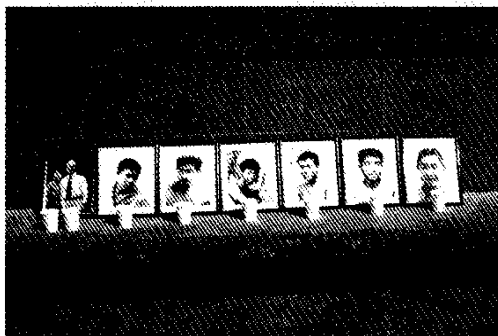
大学は冬の時代に入っています。人気のある実技にして継続するためにさらなる改革が必要です。その「下準備」をして、次の講師にバトンタッチしたいと考えています。(筆者は横浜市立大学看護短期大学部教授)

小島合宿所 早風碑整備と周囲の修理完成式

1972年5月に建設された早風碑。その周囲が老朽著しく素人工事では追い付かなくなってきたのを、小島様のご手配で修理して下さいました。これを機会に98年11月3日、大勢のOBが参集して、小島さまご家族と「早風と6人」を偲んだ。長い年月で見えなくなった碑文も再現して、往時を思い安全への誓いを新たなものとした。

この合宿所が出来て、早稲田が使わせていただき始めたのが1968年(昭和43年)、慶応が三戸浜に来たのが1971年、早慶戦は1972年から三戸浜沖でやるようになった。早風碑は1972年5月完成した。碑の設計は江の島ヨットクラブと同じ山田水城先生(東大OB)です。碑・自体は頑丈であるが、周囲のセメント壁、階段などが潮風にやられて崩れてきたもの。素人工事で苦勞した学生時代の思い出があるOBも多いようだ。

もう四半世紀のヨット部の歴史がこの合宿所で綴られたことになる。歴史と意義を後輩に伝えるのは全OBの義務であろう。



[OB出席者]

永元作一、佐伯浩一、千葉米作、杉山博保、中田忠雄、加藤文生、石田晋也、角田之男、木村光成、中島順二、出基人、浅野博明、大興太郎、松島弘行、小嶋朋好、杉山孝順、岡部有治、石合幸彦、杉井健治、藤井達也、大原義昭、中島健治、小池充郎、久保田悟、川原康嗣、坂部匡、清水宏和、小川嗣業、米令二、星野禎介、柳川卓史

この日は早風遭難の日。今年ちょうど関西で全日本インカレが行われたので学生はこの日列席出来なかったもので、後日OBから趣旨の説明が行われた。小沢会長も全日本学連会長として関西出張中だった。

なお、改修費用は小島様側でしていただいたが、長年使わせていただいている感謝の気持ちを表したく、有志の寄付をつのりお礼を致しました。(報告は別途、会計報告と共にいきます。)

[訃 報]

二人の大事な先輩が他界された。



坪田善男さん

昭和20年卒業・78才

戦時中のヨット部は学徒錬成部帆漕部と改名していた。歯切れの良い決断力に富む帆走をしたことを仲間たちは思い出す。この時代の学生は、学徒出陣、繰上げ卒業も含めてアメリカとの戦争に出陣した。国を守る使命感に燃えていた。彼は海軍陸戦隊の小笠原群島父島の守備隊を率いていた。やがて終戦。大日本印刷で活躍、要職にあった。早稲田ヨット部50年史を製作する昭和56年頃は監査役であった。当時の杉山理事長、舟岡事務局長が「家をカタにいれるから、お願いします」との口説きに半ば呆れながら協力して下さった。そうと決まったら、良いスタッフを配して立派な部史を作って下さった。同じ時期のヨット仲間と晩年まで良くゴルフを楽しんだ。大型艇募金にご寄付をいただきながら、その姿を見ることなく逝かれた。



渡辺禎夫さん

昭和26年OB・70才

戦後のヨット部で健闘された。やせっぽちの多かった当時の学生の中で、巨漢で知られた。それでいて繊細であり微風に強かった。ローマ・オリンピックの予選で松本富士也・舟岡正と組んでスターに出場した。あの「紺碧」は走らないフネだった。しかし風が吹くと、彼のウエイトは物を言った。両国の材木屋さんだった。明治以来の老舗。単なる木材問屋でなく、時代に適応した林産工業に仕立て上げた。大川端の水路をたどってお店の横に早稲田のフネが来たりした。昭和52年頃、早稲田ヨット部の財政危機に際して岡本造船所に値切りに出掛け、気持ち良く値切り岡本豊さんを閉口させた。そしてOB会の規約作り、理事会作りを両国のお店でやった。杉山博保、近藤光徳、米田晴二は何遍お邪魔したか分からない位。次男・誠二君は早稲田に入学し親子ヨット部員となる。誠二君は昭和63年OBである。数年前、ニュージーランドに旅行した時の写真が遺影となった。ボートにのって赤いライフジャケットが良く似合って後輩たちに語りかけているようだった。

編集後記

* 海外にいるOBから、[航跡] でヨット部の現状がよく判る……とクリスマスカードや年賀状をいただく。毎年、これに励まされて、年末年始この作業に集中します。今回は、諸般の事情で発行が遅れたことをお詫びします。98年度の報告をまとめて「航跡36号」と致します。

* 他の大学のOB会情報を聞く機会があった。OB会費の単価はほぼ同じ、ただし自動振り込みの加入率に差がある。我がOB会はこの点負けている。いつの理事会もこれに注力するのだが、未だ不満が残る。各年代ごとに自動振り込み実施にもう一努力をと、このところの理事会の話題。未加入の方は是非ご理解賜りご加入ください。

* 部員が少なくてレースの組立てが大変だが、若いOB諸氏の協力で今年もシーズンに入る。

* 3月12日、99年度^{総会}理事会を開催した。OB会の運営、人事などで、小澤会長に一喝を食らった。このため、臨時理事会を選びOB会の今後の運営について協議を重ねている。理事会の構成、運営、規約の見直しなど。

* 新しい情報を新しい役員メンバーで纏めるには、未だ若干の日時が必要なのでとりあえず98年度情報をお届けいたします。

* ヨット部のホームページが出来ました。学生の活動報告やOBの交流の場所にしたいと思います。

まだ工事中ですが以下のアドレスにアクセスしてみてください。

<http://www.unlimited.co.jp/WasedaYacht>

(米田)